

# 防府バイオマス・石炭混焼発電所 建設所だより



## 5月10日 ドラム揚げ式を行いました



▲左から AWEP山口(株) 猪俣社長、住友重機械工業(株) エネルギー環境副事業部長 小西様、中電プラント(株) 取締役火力部長建設技術センター長 山田様、与田リース株式会社 代表取締役 与田様、富士電機(株) 営業総括部長 笠原様、太平電業(株) 執行役員中国支店長 近嵐様



▲蒸気ドラム本体 全長約14.5m、重量はおよそ83.7t

5月10日に関係各社の方にもご参列いただき、総勢40名でドラム揚げ式を執り行いました。

式典終了後には、およそ60mの高さまで吊り上げ、仮設置作業を実施しました。

発電所が運転開始すると、ドラムには燃焼ガス(節炭器)で温められた水と、蒸発管(火炉)で発生した蒸気が自然循環により入り込み、蒸気をタービンへ送り出すパイプ役を担います。



▲仮設置作業の様子

## 2月23日 内航船の起工式を行いました



◀前列左から (株)三浦造船所 取締役会長 三浦様、AWEP山口(株) 佐藤、富士海運(株) 代表取締役社長 吉津様、AWEP山口(株) 横田所長、富士海運(株) 専務取締役 脇村様、AWEP山口(株) 成瀬マネージャー 後列左から 富士海運(株) 片山様、三島様、山本様、北九州銀行大分支部 支店長 池永様



2月23日に大分県佐伯市にある三浦造船所で内航船の起工式を行いました。当日は晴天に恵まれ、無事、全ての式典が執り行われました。平成30年6月に進水式、同年12月の就航を計画している本船は、当発電所で使用される石炭、PKS(パーム実のヤシ殻)を防府三田尻港へ運ぶ役割を担う船で、大きさは約3,000tの予定です。





# 2018年4月末時点 工事進捗状況

2018年3月中旬  
工事全体写真



写真右側の建物がタービン建屋です。  
4月末には建物を覆っていた足場がほとんど外され、建屋の全体が見えるようになりました。  
大型機器を建物内に運びこむ為に、屋根の一部や壁の一部はまだ取付けられていません。  
現在は制御室をはじめ、各フロアの内装作業や、大型機器の設置工事を行っています。

写真左側の青い鉄骨建物がボイラー棟です。  
3月中旬時点では、約30mの高さでしたが、4月下旬に約60mとなりました。

更に排気筒が2018年度上期中に設置される計画で、高さは約100mになる予定です。

また、鉄骨の中にボイラー用の様々なパーツが組み込まれてきたため、鉄骨の向こう側の景色はほとんど見えなくなりました。

2018年4月下旬  
工事全体写真



手前左側がPKS(パーム実のヤシ殻)用の受入タンク(容量3,800 $m^3$ )、右側が石炭用の受入タンク(容量5,000 $m^3$ )です。どちらのタンクも、現在建設中です。  
三田尻港で荷揚げされた燃料はコンベアにて運搬され、それぞれのタンクに貯蔵される予定です。

## 4月20日 親睦BBQ大会



発電所建設の協力会社主催による、工事関係各社約20社で親睦BBQ大会が行われました。約200名の参加者でじゃんけん大会、ビンゴ大会等も行われ、盛会のうちに終わりました。

